

## 次の時代にむけて

愛知県自閉症協会 会長 鈴木 寛

平成 22 年度のメンター活動を成功裏に終えることができました。会員のみなさま、活動に参加されたみなさま、県福祉行政に携わっておられるみなさま、あいち発達障害者支援センター、名古屋市発達障害者支援センターのみなさま、多大な助成をいただいた日本財団さま、ご指導いただいた井上先生、吉川先生、そして活動を支えてくれた愛知県自閉症協会の事務局、スタッフのご努力とご協力の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

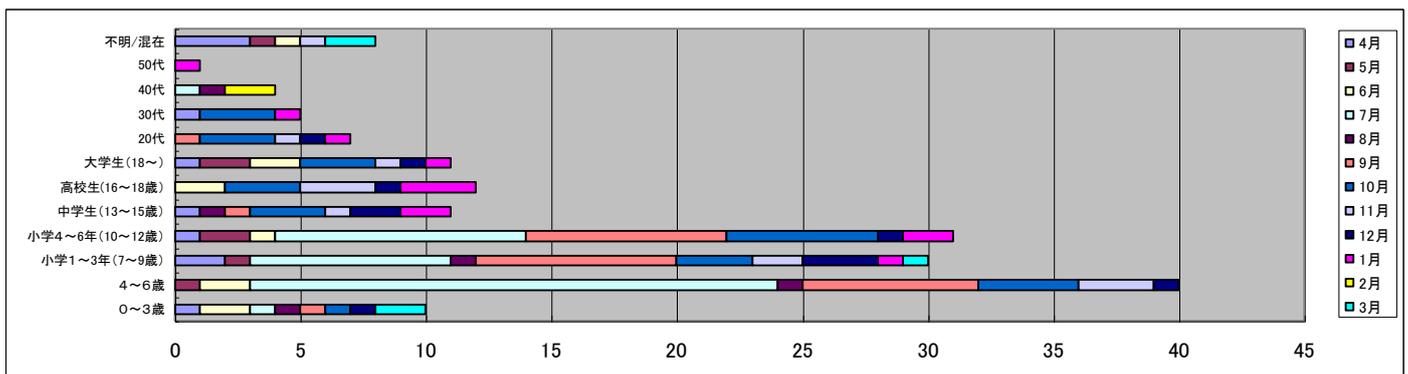
3 月 1 1 日に発生した東日本大震災において被災された方々の中で、自閉症をはじめとする発達障がい児者とそのご家族がご苦労されている状況が、一部のメディアでの報道や、東北各県の自閉症協会のレポートでわかってまいりました。被災地のみなさんが一日も早く日常を取り戻していただけるようにと願いつつ、そう遠くない将来に東海地方が震災にみまわれたときに、私たちはどうするか、その備えをどうするのか、についてあらためて考えさせられました。

メンター活動は、自閉症児者とその家族の安定した日々につなげるものですが、その根底にあるものは、みんなで支え合うということです。まいとし、地道に着実に活動を積み重ねていくことで、日常の日々はもちろんのこと、いざというときの支えとなるシステム構築につながるものだと確信しています。その意味でも、来る新年度の活動、その先の活動を着実に進めていきたいと考えます。メンター活動に関わっていただけるすべてのみなさまのご協力をお願い申し上げます。

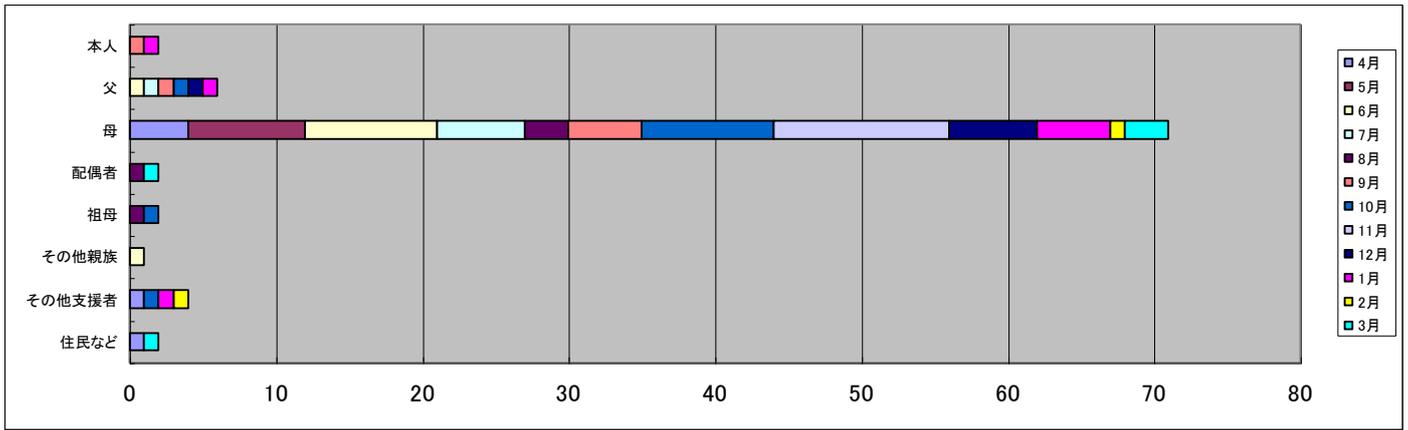
### ①メンター活動報告(1～3 月)

1 月 12 日	サポートブック研修スタッフ派遣(フォローアップ)	1 名
1 月 23 日	全国LD親の会主催 養成講座派遣	1 名
1 月 29 日	講演会依頼(下関派遣)	1 名
1 月 30 日	保育士連続研修におけるファシリテーター	6 名
2 月 2 日	サポートブック研修	1 名
2 月 5 日	医療従事者研修講師派遣	1 名
2 月 26 日	ペアレントメンター応用研修Ⅱ(学校編)	28 名
2 月 27 日	ペアレントメンター応用研修Ⅱ(身体医療編)	24 名
3 月 2 日	サポートブック研修(フォローアップ)	2 名

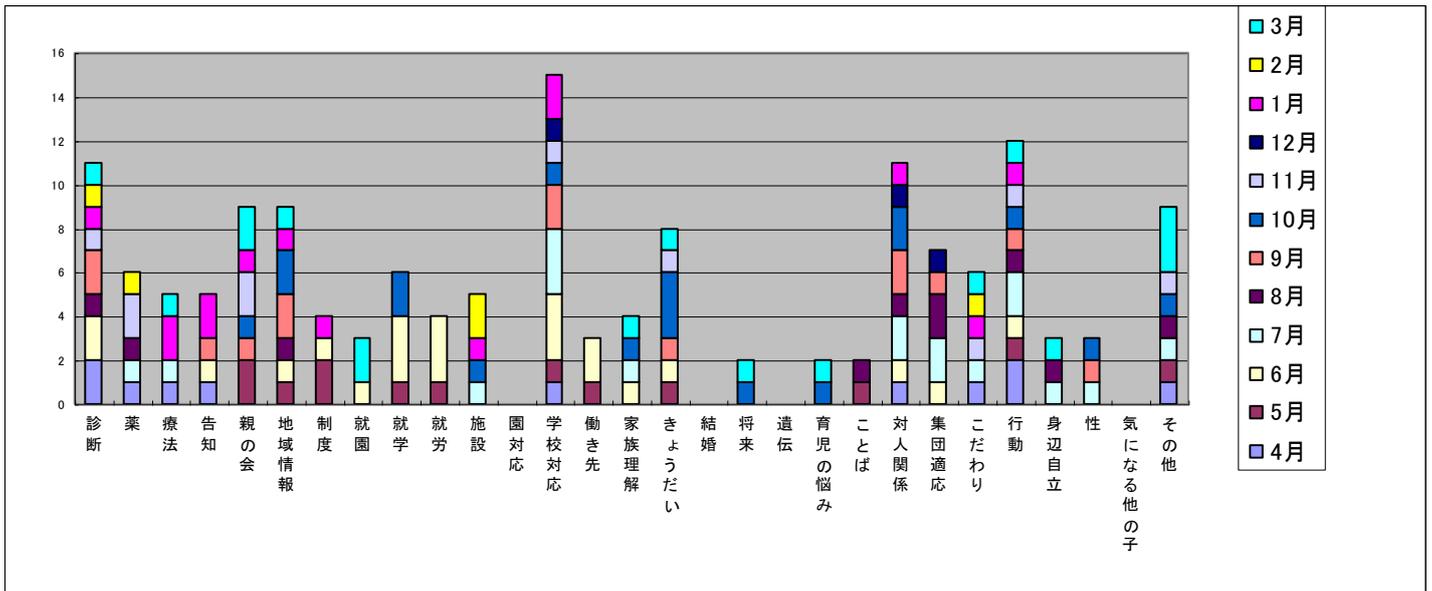
### ②相談対象者年齢(平成 22 年度年間集計)



### ③相談者と相談対象者との関係(平成 22 年度年間集計)



### ④平成 22 年度集計から見てきたこと



平成 21 年度の集計をもとに、今年度は比較しながら集計してきました。やはり年間通じて「学校対応」に関する相談が多く、次いで「行動」「対人関係」「診断」の順でした。昨年度 2 番目に多かった「きょうだい」に関する相談は今年度は 6 番目になりました。

昨年度末に、多くなる「学校対応」についての相談を、ペアレントメンターとしてどのように対応したらいいのかと考えた結果、応用研修のテーマを「学校」にしましたが、今年度も同じく学校についてが多く、今後の相談に即実践できる内容であったと思います。

22 年度は愛知県下で色々なセミナーが行われました。触法について、性の問題、医療について、怒りのコントロール、祖父母講座、応用行動分析、就労、学習障害の支援……数え切れないぐらいの内容がありそれぞれ相談にあげられるテーマにそっているものもあります。インターネットで得た情報、これら講演会からの情報もあり、相談する前にタイミングよく出会うことができればいいかと思います。

2年の流れを見ていくと、年度を通しておおよそ4つの流れになるのではないかと思います。

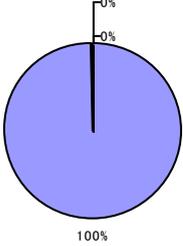
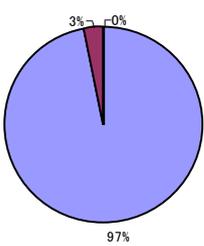
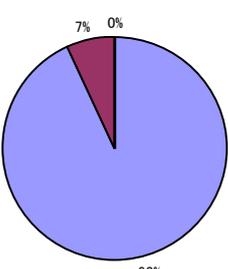
- ①4～6月ごろ……新しい環境に馴染めない、就園・就学をしたら担任から行動を指摘されたなど、診断・制度につながる内容が多く見られます
- ②7～9月ごろ……診断を得て進学、進級した方々より「相談しておいたのに話が違う」という学校との認識の違い、学校の友達とのトラブルなど学校関係が多く、秋の行事シーズンに向けて行事の多さに対応できないなど行動に関することも多くあります
- ③10～12月ごろ……次年度に関する引継ぎの不安、進路への迷い・ポイントなど早めに準備する際の相談が多く見られました。
- ④1～3月……新年度への準備も終わり、進路などの相談がぐっと減ります。変わって成人さんの相談が多いのが目立つようになりました。

以上の点を踏まえ、集計サイクルを 3 ヶ月毎にしておくことはおおよその流れ、関係性が見えてくるので、23 年度もこのままのサイクルを進めて行こうと思います。

# メンター応用研修Ⅱ報告

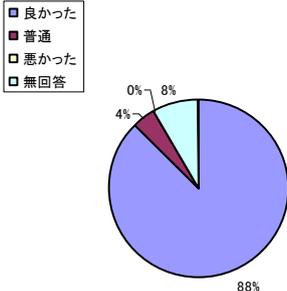
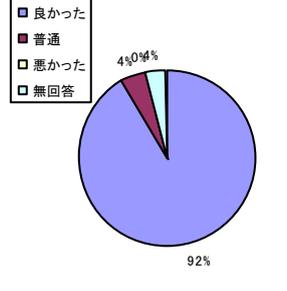
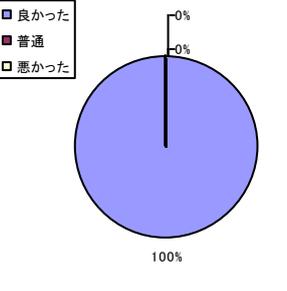
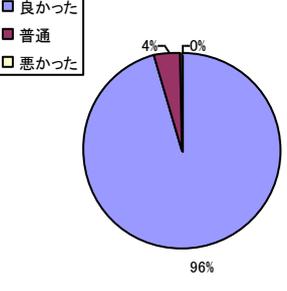
平成 23 年 2 月 26 日、27 日の二日間、名古屋市高齢者就業支援センターにおいて、『平成 22 年度ペアレントメンター応用研修Ⅱ』開催しました。名古屋のメンター研修でおなじみの吉川先生をはじめ、井上雅彦先生、原口英之先生はじめたくさんの先生方にご指導いただきました。また、27 日は「身体医療について」の一般公開とし、千葉県自閉症協会会長で千葉県の旭中央病院脳神経外科部長、大屋滋先生のご講演をいただきました。今回の研修の事後アンケート結果をここに報告いたします。

## 26日(学校編)参加メンター29名

<p>講義 学校との関係</p>	 <p>Legend: ■ 良かった (Good), ■ 普通 (Average), □ 悪かった (Bad)</p> <p>100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 真の困りごとを探す難しさを再認識した</li> <li>○ 親が学校を理解するのも重要だと思った</li> <li>○ 「気をつけること」「心がけること」など改めて見つめる事が出来てよかった</li> <li>○ 「最終判断は家族」「メンターだけで解説することは難しい」この点を忘れないよう、おせっかいにならないよう気をつけます</li> <li>○ 過度な共感、主観的なアドバイスをしてしまいそうな自分がいたが、改めて気をつける再認識ができた</li> </ul>
<p>講義 各現場から</p>	 <p>Legend: ■ 良かった (Good), ■ 普通 (Average), □ 悪かった (Bad)</p> <p>97% 3% 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大変なのは親だけじゃないんですね。。。</li> <li>○ 原口先生の「主観的事実と客観的事実に分けて考える点」や自分と相談者の価値観の違いなど参考になった</li> <li>○ 教育現場の本音の話を聴き、先生方を攻めるだけではなく、子どものために育てていく姿勢が大切を痛感した</li> <li>○ 理想と現実の違いや差が、相談にのる上でも難しさを増している気がしました</li> <li>○ 各立場の思いや立場に実際触れる事ができて、メンターとしての理解や知識が深まったと思った</li> </ul>
<p>事例検討 実技</p>	 <p>Legend: ■ 良かった (Good), ■ 普通 (Average), □ 悪かった (Bad)</p> <p>93% 7% 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事例検討をすることで、相談内容が整理でき、その上でどのような方向に話を進めていくのかがわかった</li> <li>○ メンター役をし、みなさんからのアイデアや視点を意識して相談にのることができたので実践に役立ちます</li> </ul> 

## 27日(医療編)参加メンター24名

27日は「最新医療」「身体医療について」「パネルディスカッション」のみ一般公開とし、74名の方の参加がありました  
その後、メンターのための講義で二日間の研修を終えました

<p>講義 最新医療</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ DSM-5 のことがとても勉強になりました</li> <li>○ 短い時間ながら濃い内容でよかった</li> <li>○ 誰が聞いてもわかりやすいと思った</li> <li>○ 薬物療法の話が参考になった</li> <li>○ 医療がどんどん進んでも、そのスピードについていけない機関、情報の混乱が繰り返し起こると思う</li> <li>○ 自閉症スペクトラム障害になるとわかりやすい</li> </ul>
<p>講義 身体医療</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療サポート手帳は素晴らしいと思った</li> <li>○ ヒントになる事が多く、参考になった</li> <li>○ 実例がとても印象的で興味深かった</li> <li>○ 自閉症の人への治療が困難や断らざるをえない医師が多いことに驚いた</li> <li>○ 自閉症の子どもをもつお医者さんが居てくれてよかった</li> <li>○ 知的、発達障害に対する色々な取り組みがされていて勉強になった</li> </ul>
<p>ディスカッション</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもを思い出してじわっときた</li> <li>○ どの話も身近なことなので勉強になった</li> <li>○ 同じ親としてがんばっている姿をみて励みになった</li> <li>○ 時間が短かった。もっとききたい。</li> <li>○ 医療用サポブを作成すると思う</li> <li>○ 歯科は小さい時から経験しなくてはならない機関なので、受け入れ体制が進んでいてうれしかった</li> <li>○ 「親が DR を信じる」「子どもはできると信じる」ということはとても大切だと思った</li> </ul>
<p>講義 医療相談</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 裏リストは本当に必要だと思う</li> <li>○ 難しい事例が聞けて参考になった</li> <li>○ どのテーマもメンターの役割に共通すると思った</li> <li>○ 今はネットが主流といわれていますが、やはりメンターとして地道につながりを作っていきたいと感じた</li> <li>○ 公開ではなくクローズならではの突っ込んだ話が出来て楽しかった</li> </ul>

## 「歯科医療の立場から」

昨年6月、コロニーで偶然吉川先生とお会いした時、今回の「身体医療について」のシンポジウムのお話を承りました。恥ずかしながらメンターについての知識が乏しく、吉川先生のご指導と事前アンケートで勉強させて頂きました。

日常の歯科臨床において自院と歯科医療センターで、試行錯誤しながら診療を行っていた私にとって、今回の吉川先生と大屋先生のご講義は、とても有意義で新鮮なものでした。



特に大屋先生のご講演では「歯科では・・・」と言う言葉が頻繁に出て来て、その度に「ドキッ！」とご用意して頂いた一番前の席で目を見開いて拝聴しておりました。事前アンケートやご講演の中で「歯科受診にお困り」の親御様が、他科に比べ如何に多いかを再認識させて頂きました。また、「受診後の満足度」も他科と比べ高い事を知り、身の引き締まる思いです。歯科でよく用います技法に「モデリング」があります。お子様方が大きくなれば「母子分離」が基本なのですが、幼い頃からの「習うより慣れよ」が特に治療器具が見えない歯科では大切だと考えております。どうぞ親御様方から「歯科恐怖症」を克服して頂き、モデリングにてお子様方の「良き見本」となられる様をお願い申し上げます。

今後とも微力ながらお力になれば・・・と精進する所存です。

糸山歯科医院 糸山 暁

まだまだたくさんみなさまからのコメントを紹介したいのですが、紙面の都合上申し訳ありません。

ご指導いただいた先生方に感謝したいと思います。また、お忙しい中名古屋までわざわざ来ていただいた日本財団の沢渡さんにもこの場を借りて御礼申し上げます。

予想もしない規模の地震が発生しました。緊急の身体医療についてを事前に勉強することができ、ペアレントメンターとして何が出来るか・・・とより一層考える事が出来たのではないかと思います。愛知県自閉症協会では従来研修参加者のみに時価販売しております「緊急シート」を当会 HP に掲載することにし、3月20日より1ヶ月間掲載しました。緊急サポブの研修会も秋に開催を予定しています。愛知県・愛知県医師会・愛知県歯科医師会作成の「受診カード」も HP からダウンロードできるようになりました。(詳しくは愛知県障害福祉課のホームページ、または<http://www.pref.aichi.jp/0000038969.html>) この機会に是非、お子さんのサポートブックについて見直してみませんか。この地元でできることもたくさんあると思います。一人一人心に留めて過ごしていきたいと思います。

## ⑤ペアレントメンター報告

こんにちは、メンターの松田です。

私は、2008年にベーシック研修を受け、その後フォローアップ・サポートブック作成リーダー研修、応用研修を受講しました。そして、家族支援プログラム他に参加させて頂きましたが、私の日常は、高齢者の介護という仕事を中心の生活です。不定期に開催する茶話会や、学校行事でお会いする方々のお話を伺う位で、たくさんの相談は受けてはいません。そんな私の元に、つぼみの会事務局の加藤さんから「サポートブック作成研修お願い〜。」の電話が……。経験ございません私・・・は、断る理由にならず、不安を抱えながらも「講師デビュー」をお受けしました。

その後は加藤さんと、資料の確認や打ち合わせをして頂き、ドキドキしながら当日を迎えました。

研修は、もちろん、自分にとっても、満足する内容ではありませんでした。

一番の反省は、必要な事を漏らす事なく伝えなければ！という思いが強く、聞いてくれている人の気持ちを考えながら話すゆとりがなかった、という点です。

それでも、後日目を通したアンケートには、嬉しくなる内容が多く、少し安心できました。

当日は、事務局から応援も来てくれましたし、進行も一人きりではありません。

初めての経験は緊張しますが、まれにしか参加できない私に声をかけてくれた加藤さんはじめ、つぼみ事務局の皆様へ感謝しております。ありがとうございました。

この経験を活かし、今後も頑張りたいと思います。

愛知県自閉症協会 松田 尚子

⑥メンターQ&A:先号から始まった「メンターQ&A」今回は5～7を紹介します。

## 5. 相談を聞いていたら、段々私も相談者と同じようにおかついてきた・・・

<メンターより>

相談者が怒っている場合、聞いているメンターも段々感情移入してしまい怒れてきてしまうこともあるでしょう。(同じように相談者の悲しみに涙してしまう場合もあるでしょう)相手が存在するトラブルの場合、双方の考えを聞いていない状態では、相談者からのコメントに基づいての事実関係はかならずしも正しいわけではありません。一時的な感情移入は共感できていいのですが、あまりのめりこまないようにするよう心がけましょう。もちろん、怒りを増長させないようにすることも大事です。怒りの感情をうけとめ、少し冷静になって見つめなおしてもらおうようにするといいかと思います。



<インストラクターより>

自分の感情の状態に気づけるかどうかのポイントです。「私もイライラしてきた」と感じていることを客観視できると、少し冷静になれると思います。また普段から、自分の特徴、例えば「こういう話を聞くとイライラしてしまう」や、「こういう話を聞くとつらくなってしまふ」などを知っておくことが大切です。普段から、自分の相談の時の特徴について意識しておきましょう。こちらが冷静でいることに相手が怒ってしまう場合に、感情をぶつけられてしまうこともあります。相談者がそのくらい強い“怒り”の感情を抱えているんだなと理解してあげましょう。

## 6. 自分より先輩のお母さんから相談がきてしまった・・・

<メンターより>



リソース情報をお伝えして済む相談ならば、大丈夫でしょう。しかし、どうしても自分の経験にないことを聞かれてしまったときには「(相談者と)同年代のメンターに照会して次回お返事をさせていただくか、次回の担当をお応えできるメンターにするようにしますがよろしいですか?」と相談者にお伝えいただければ大丈夫でしょう。もしくは、関係機関をご紹介するなど、人生の先輩ママから相談がきてもしリソースがあれば対応できると思います。

<インストラクターより>

自分の体験にないことはイメージがわかず、応えることに不安を感じたりもしますね。大切なことは、相談者がどんなことを考え、感じているのか、その人の“気持ち”に共感することです。気持ちの共感は、年齢が上でも下でも関係ありません。ただそうは言っても、相談を受けることに自分が不安を感じてしまう場合や、相談者が具体的な対応策や情報がほしいということであれば、年齢の近いメンターに替わってもらうのもよいでしょう。

## 7. 相談者の気持ちにどうしても共感できません



<メンターより>

どう考えても共感できない内容があることも事実です。「すべての相談者の話に共感しなくてはならない」ということではありません。共感することによって、後々相談者が訴えを起こしてしまったり、学校に乗り込んでいったということになってはいけません。社会的に「それは違うよね・・・」と思う事まで共感する必要はありません。では、どうするのか・・・傾聴することは出来るかと思います。その中で「私だったら〇〇するかなあ・・・」と道に外れるようなことをやんわり気づいていただくようにすることはできるのではないのでしょうか。

<インストラクターより>

人の考え方・感じ方はそれぞれですから、相談内容によっては共感できないことがあるのは当然のことです。相談全てに共感しなければならないというわけではありません。ただ、そのような場合であっても、相談者が何を考え、何を感じ、その理由がどうしてなのかを聞いてみることはできるでしょう。応答する際には、「あなたは・・・」と相談者自身の考えや感情について返しなが、「私は・・・」と自分の考えや気持ちを伝えるなど、“主語”をつけて返していきましょう。相談者自身が、自分の考えや気持ちと他の人の考えや気持ちに気づいていくことが必要になります。また、内容によっては相談者にこちらの考えや気持ちを伝えず、相談機関などを勧めてみるのも1つです。

## 「今回のゲストコメンテーター」

ペアレントメンターのみなさま、こんにちは。昨年度まで愛知県健康福祉部障害福祉課で発達障害者支援事業を担当しておりました加藤です。

初めてメンターのみなさまをお見かけしたのは、2年前の早春、愛知県自閉症協会（つぼみの会）が愛知県委託事業（モデル事業）の中で実施されたペアレントメンター養成研修であったと思います。当時の担当者の急病により代打として参加したのですが、参加されたメンターのみなさまの熱意と、事務局のみなさまの元気に圧倒されて帰りました。子育てで大変な時期にもかかわらず、年齢も私とそれほど変わらない（失礼！）お母さん方がどうしてこれほど頑張れるのかと、びっくりした覚えがあります。

その翌年、発達障害者支援事業の担当となって他の研修にも参加させていただくようになり、「発達障害」という言葉が社会で認知されるずっと以前から、行政の手が回らないところでこうしたお母さん・お父さんたちが頑張ってきたからこそ、今の発達障害者支援があるのだと気付かされました。愛知県は、発達障害者支援、特に家族支援においては全国一だと厚生労働省の会議等で常々実感しておりましたが、メンターを始め、家族会のみなさま方の尊い努力が根付いているからだと思います。

発達障害を担当したのはわずか2年、本当に短い期間でしたが、今までの公務員生活で一番勉強させていただいた時期だったのではないかと、しみじみと振り返っています。少しでもみなさまの思いを事業という形にしたかったのですが、中途半端で終わってしまったことが心残りです。

4月から児童家庭課に異動し、児童虐待を担当することとなりました。子どもや保護者が発達障害であるにもかかわらず、適切な支援が受けられずに児童虐待が起こってしまうケースも多いと聞いています。これからも発達障害のことを学びながら、今後の仕事につなげていきたいと思っておりますので、引き続きご指導いただきますよう、よろしく願いいたします。

愛知県健康福祉部児童家庭課 加藤 千恵子

## ⑦今後のお知らせ

**1. 平成24年4月1日より、従来の報告書を改訂いたしました。2 月末のメンター研修に参加された愛知県のペアレントメンターさんにはテキストと共に配布させていただいておりますので、今一度ご確認ください。応用研修に参加されなかった方には今回のメンター通信と共に、配信・送付させていただいておりますので、よろしく願いいたします。**

**2. 養成講座「フォローアップ研修」「サポートブックリーダー養成研修」未受講の方・・・あいち発達障害者支援センター主催で7月2日～3日の日程で当概研修を予定しております。該当の方にはセンターからの文書を一緒にお送りしておりますのでご覧ください。（申込先はセンターになります）**

**3. 平成23年度ペアレントメンター応用研修Ⅲは平成24年2月25日～26日での開催が決定しました。これから研修内容などを先生方とご相談の上、決めていきます。あらかじめご予約いただきますと幸いです。今年度はメンター茶話会を新設、事例検討会と共に数回開催したいと思います。日程調整が済み次第、随時ご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。**

**4. 今年度もペアレントメンターのみなさまに各事業のご参加いただきたく、先日ご案内を送付させていただきました。是非今年度も各事業にご協力ご参加のほどよろしくお願い致します。**

**5. 4～6月の活動報告書提出の締め切りについては、7月10日です。期日までにご連絡(相談数がない場合もお願いします)を御願い致します。**

## 第8回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

ペアレントメンターのみなさま、日々の活動お疲れ様です。

平成 22 年度の集計を見せていただいて感じるのは、メンターの方々の受けていらっしゃる相談が、とてもタイムリーなものだということです。残念ながら医療での相談は、一時期よりは幾分短くなったものの初診にも待機期間がある期間が多く、どうしても数ヶ月のタイムラグが生じてきます。また初診では診断そのものや、障害の説明などに時間が費やされます。再来の間隔も少しあくことが多く、どうしても即座に困りごとに対応することが難しくなります。こうした中で、シーズン毎に現れるその時々課題に即応できる相談というのは、とても貴重なリソースであるとあらためて感じます。

さて平成 22 年度は、愛知県のペアレントメンター活動にとっても節目の年となりました。あいち発達障害者支援センターの主催にて「発達障害」全体を対象としたメンターの養成がいよいよ本格的に始まったこと、親同士による事例検討が始まったことは画期的であったと思います。同時に今後も継続して新たなメンターの養成とスキルアップを続けていく基盤ができつつあると考えてよいのではないのでしょうか。

平成 23 年度にはいよいよ各団体、行政、専門家によるペアレントメンター連絡会の発足が計画されています。親による自発的で小回りの利くピアサポートの活動を、行政と専門家がどのようにサポートできるのか、その姿をこれから作っていくこととなります。ペアレントメンターの活動はあくまで親が主体であるべきであり、連絡会のあり方は、おそらくこれまでにあった様々な会議や検討会とは少し違ったものになっていくのだろうと予感しています。

親から親への支援は、それぞれの親が、それぞれの親の会がそれぞれの目標や体力にあわせて活動していくのが望ましい形だと思います。そして親同士がそれぞれのリソースの情報や活動報告を共有し、協力してスキルを高め、時には力を合わせて少し大きな活動を行っていくことで、長く、無理なく活動していけるのではないのでしょうか。そして行政と専門家がその活動をバックアップしていくこととなります。こうした新しい協働の形は、これから試行錯誤しながら、模索していく必要があるのでしょうか。これからのペアレントメンター活動のますますの発展をとても楽しみにしています。

名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科 吉川 徹

### <編集後記>

平成 23 年 3 月 11 日、予想もしない規模の地震が発生しました。ご親族の方、お友達など東北地方にいらっしゃる方も多いと存じます。被災された皆様、関係者のみなさまに心からお見舞い申し上げます。

メンター研修を終え、すぐ参加者アンケートをまとめ始めたところ、みなさんとてもたくさんのコメントをご記入いただき、うれしい悲鳴が(打ちこむのに必死でした……)。みなさまの意識の高さを物語っていました。先生方には早速報告させていただきました。その当日、お忙しい中名古屋に足を運んでいただいた日本財団の沢渡さん(「加藤さんに来てって言われて…」とコメントされましたが…苦笑)は、東日本大震災を機に災害支援チームに異動され、現地に向われたとのこと。現地での沢渡さんのご活躍をメンター全員でお祈りしたいと思います。来年度も助成をいただくことができ、22 年度同様充実した活動にしていきたいと思っています。今後ともみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

春休みを終え、新しい年度を迎えています。新しいスタートを迎えたみなさまおめでとうございます。順調に日々を過ごされる事をお祈りしています。

発行者：愛知県自閉症協会 (つぼみの会)

〒460-0013 名古屋市中区上前津 2-14-25 上前津中央マンション 202号

TEL/FAX 052-323-0298 E-Mail: [tubomi-aa@nifty.com](mailto:tubomi-aa@nifty.com)

編集担当者：支援部 加藤 香